

研修センター「国際理解教育講座」 参加報告

報告者 北見市立美山小学校 大垣 正紀

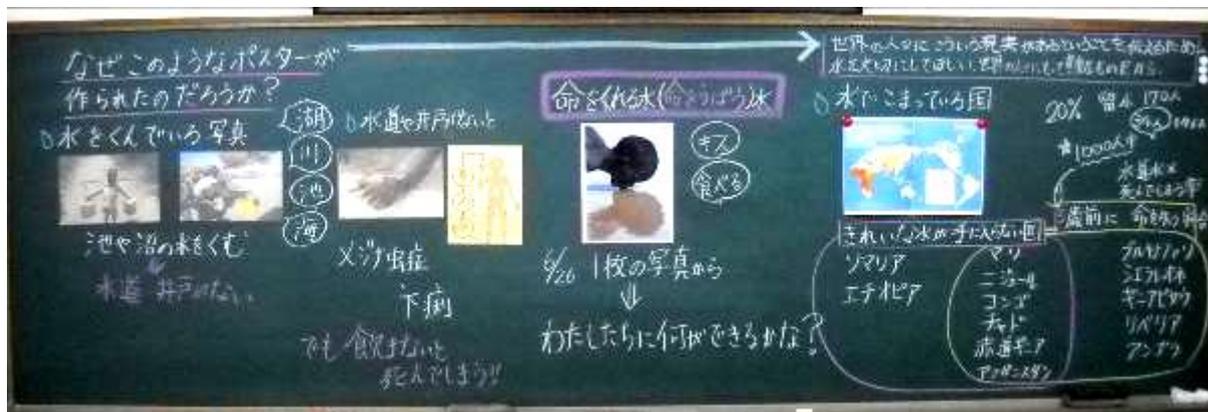
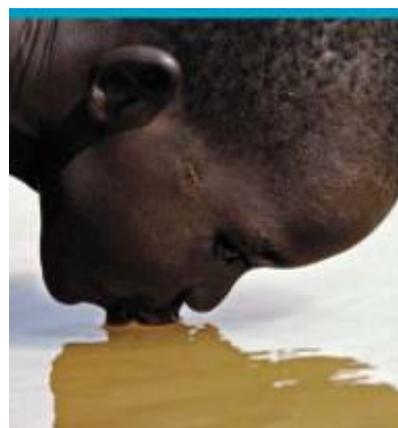
講師 松永 祐子指導主事 藤田大之先生 有路直人先生

1. 説明1 模擬授業（藤田先生）

藤田先生が、昨年度の管内大会で公開された授業の指導内容を少し変えたものを見せていただきました。昨年同様、ユニセフの水問題に関するポスターを切り口として、世界の水問題の現実から「自分達に出来ることは何か」について考えていく授業でした。

このインパクトある写真は、「水」という実生活における身近なものに目を向け、日常の生活と比較させながら、課題解決に向け、思考をゆさぶることができるものでした。

また、水で困っている国の地図や、五歳になる前に命を失う子どもの割合を示したグラフなど、昨年以上に、詳しい資料も活用されており、資料提示の工夫等、より構造化された板書から、学習のねらいが、しっかり伝わる素晴らしい授業でした。



2 説明2 模擬授業（有路先生）

最初は、有路先生が、実際に訪れた際に撮っていらっしやった写真を使い「フォト・ストーリー」として互いに説明し合いました。

写真をいくつかのカテゴリー毎に分類しまとめながら国の状況を把握していくのに、とても有効的な手段であると感じました。



3 演習 授業づくり（有路先生）

有路先生が、長年温めてきた授業について、参加者全員が多様な視点から、指導展開について論議しながら指導案づくりをしていくというユニークな演習でした。

この授業づくり演習のコンセプトは、有路先生が、国際理解教育を推進するにあたり、常に大切にしている「自己の確立」です。

“自分が自分であること・・・I am a の a を強調できる人間形成”について有路先生が海外渡航を通して感じた、外国の人々のよさや、日本人の課題について、実体験を交えながらおもしろおかしく説明して下さっています。

「自己の確立」には一人ひとりが抱いている価値観について、自分とは違うという当たり前の意識のもと、認め合えるようになることや、自分の価値観を相手に主張できるようになる必要があるという、有路先生の熱い思いがストレートに伝わってくる素晴らしい演習でした。

4 説明3 国際理解教育の基本的な理念と指導の在り方（松永指導主事）

松永先生の経歴紹介ののち、国際理解教育にて目指すものやその学習領域について詳しく説明していただきました。

その中で、国際理解教育の充実を図るためには、指導者自信が、そのねらいを明確にし、広い視野をもって教材準備、単元計画、指導の工夫に努める必要性について教えていただきました。

5 おわりに

今回、初めて講座に参加させていただきました。松永先生から教えていただいた「差異性と共通性について「差異性へのおどろきや好奇心にとどまらずに、共通性に気付き親しみをもつことで、共感的な理解につながる」ということについては、国際理解教育だけではなく、担任として、日常の学級集団の中で育てていきたいことだと実感しました。

また、有路先生は、演習の中で「一緒に遊ぶことを大切にしたい。」とおっしゃられていますが、この意識こそが、他者を理解し、共に生きることを大切にする国際理解教育の柱そのものだと思います。

これからも今回の講座で学んだことを元に、子ども達に「面白いな。」とか「もっと色んな事を勉強したい。」と思ってもらえるよう勉強していきます。



ありがとうございました。